

Reach Within to Embrace Humanity

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012 年度
国際ロータリークラブ会長

カルヤン・バネルジー



東京麹町ロータリークラブ

本日の例会プログラム

第 22 回例会 2012/1/23(#1962) 会場:舞の間

例会ホスト・紹介係 浅野(泰)君 会費係 齊藤君
受付係 秋山君 奥村君
司会者 豊泉君 ソングリーダー 高山君

卓話 「乳幼児教育の重要性について

～なぜ 3 歳までの教育が重要なのか～

ATカンパニー(株)代表取締役 浅野 忍士氏
紹介者 湯澤君

前回の報告

第 21 回例会 2012/1/16(#1961) 会場:舞の間

例会ホスト・紹介係 青山君 会費係 佐藤君
受付係 長廣君 杉本君
司会者 豊泉君 ソングリーダー 高山君

卓話 「三役挨拶」

植芝 守央会長
辻嶋 彰副会長
松本 直樹幹事

会長報告

- 1)皆様明けましておめでとうございます。今年は、ほほえむことが重なるよう願ってやみません。本年も宜しくお願い致します。
 - 2)R財団より、昨年のチャリティーコンサート収益金寄付に対する感謝状を頂きました。今期も 5 月にチャリティーコンサートを開催致します。皆様のご協力をお願い致します。
 - 3)昨年のクリスマス会では素晴らしいコンサートで盛り上げてくれました。米山奨学生のキムさんが出席です
- 上半期入会の皆出席表彰を行います。

38 年白銀・新村会員 23 年村田会員 21 年木元会員 16 年中谷会員 12 年垣見会員 10 年地引会員
9 年飯嶋会員 8 年松本・植芝会員 6 年青山・高山会員 4 年河合・鄭会員 2 年須藤会員

幹事報告

- 1)皆様、おめでとうございます。
- 2)今年も高山会員より、銭洗弁天神社の縁起物御寶銭をお配り致しました。
- 3)今週土曜日に、新年親睦会を開催致します。ご家族皆様でご参加下さい。お申し込みは本日中にお願い致します。
- 4)2/13 の地酒の会の案内を配布致しました。お早めにお申し込み下さい。
- 5)例会終了後、災害復興支援の活動についての、臨時クラブ総会がございますので、お残り下さい。
- 6)本日 18 時より、維新号にてクラブ協議会がございますので、理事及び各委員長におかれましてはご出席下さい

例会記録

会員総数 52 名 出席会員数 36 名
ゲスト 0 名 その他 1 名
ビジター 2 名 事務局 2 名
海外ビジター 0 名 出席率 72.05%

12 月 19 日 Make-up 後の出席率 90.38%

【今週のMU状況】

中谷会員(東京中央RC 1/12)
高山会員(東京西南RC 1/10)

ニコニコボックス

関谷忠之様(松江南RC):H1~4 年まで在籍、
久しぶりに寄りました。
園田名誉会員:久しぶりに出席しました。
辻嶋会員:クラブ奉仕委員会、あと半年宜しく
夫人誕生日:遠藤会員(1/1)豊泉会員(1/10)
杉本会員(1/17)鄭会員(1/22)
地引会員(1/26)
結婚記念日:地引会員(1/16)
誕生日祝い:地引会員(1/2)筒井会員(1/11)
高山会員(1/29)以内会員(1/30)

次回予告

第 23 回例会 2012/1/30(#1963)

会場:舞の間
例会ホスト・紹介係 飯嶋君
受付係 荘村君 新保君
会費係 内山君
司会者 豊泉君
ソングリーダー 高山君

卓話 「ワシントン取材する」

名古屋大学大学院国際言語文化研究課
メディアプロフェッショナル講座特任教授

春名 幹男氏
紹介者 杉原君



学参出版社から見た(高校)教育の変化と問われていること

(株)いづな書店取締役 前田 道彦氏(12/5卓話 湯澤会員紹介)



①いづな書店 概略

(1)株式会社桐原書店について

- ・1967年山崎賢二・節子夫妻が設立
- ・「分からない子供のために、教えることに困っている先生のために」教科書が難しくなってきた時期、「全国

商業英語検定」を实行

『マスターリー』シリーズ、英語 reader、意味別分類英語単語集刊行

- ・1994年 検定教科書に進出

最初は英語のみだったが、4年後に英語・国語・数学・社会科刊行 35億円の借入を作る

‘97年以降、金融機関のいわゆる「貸し剥がし」に晒される

- ・イギリス ロングマン社に救済要請

ロングマン社は、ピアソンエディケーションに吸収されていた

2002年 ピアソンエディケーションが、桐原書店株 85%取得

⇨15%を山崎家が保持

(2)株式会社いづな書店設立

- ・2007年桐原書店社長・専務執行役員・常務執行役員の退社

2008年 この3人と元オーナーでいづな書店設立

いづな書店の名前の由来

2008年9月 以降元桐原書店社員 30名が合流 現在 51名

- ・2008年9月～2009年8月 350,000千円

2009年9月～2010年8月 840,000千円

2010年9月～2011年8月 120,000千円

- ・事業形態

編集本部、営業本部、管理本部の組織構成

学校採用事業⇨高校は、各校ごとに使用教材を採択する

学校が統一教材を持たせる⇨‘70年代から

高校の授業形態⇨大学入試のためには検定教科書だけで

通用しない

副教材の採択・使用⇨学年・各クラスまとめて行う

学習の機会均等と学校の入試対策

市場規模⇨英語 100億円、国語 60億円、その他 50億～80

億円

合計 210億～240億円の小さな市場

営業⇨毎日高校職員室・進路指導室に訪問し教材営業

営業員一人当たり 100校～120校を担当

いづな書店は、2,500校～2,750校をカバー

第5事業期は、1998校から注文を受けた

各高校の進路方針・指導方針を把握している

編集⇨営業と先生の話の中から、ニーズをつかみ本にまとめる

流通⇨学校→書店へ注文→取次を通して→会社に

学校→会社に直接注文

②変化(高校現場に通う学参出版社から見た変化)

(1)東の千葉、西の愛知(‘80年代前半)

- ・中学が荒れた時期=校内暴力・家庭内暴力

極端な生徒指導が反動として登場した

愛知の例:県立T高校

ゼッケンをつけての軍隊式行進

坊主頭、校門チェック

- ・大学入試の難易度がきわめて高かった時期

共通一次試験の時代=大学が序列化された時代

学参では、旺文社の時代

大学予備校、通信添削会社が大きく伸びた

暗記を中心とした教材

勉強についていけなくなった生徒が多くなってきていた

⇒学校は、底上げではなく「上位の子」を伸ばすことに集中した

(2)教材「飽食」の時代(‘80年代後半～90年代前半)

- ・経済的な好況期⇒大学進学率が上って来た次期

愛知県立I高校の例

⇒「大学に行くと4年間遊べるぞ」

どんな学習の仕方でもいいから、大学に送ることが高校の

目的となる

学校では、たくさんの学習参考書を使用

私立大学と、先生の指導上の要請を実現できる学参出版

社が伸びた

例: 桐原書店・数研出版・第一学習者

検定教科書は、得意科目を作る出版社が登場

例: 数学＝数研、国語＝第一学習者、保健体育＝大修館

家庭科＝実教出版、世界史＝山川出版

・赤ペン先生と読み書き不足（'90年代前半）

‘90年に近づく頃、少子化が鮮明な現象になる

少子化は、子供一人当たりの教育費用を大きくした

大学のキャパと進学希望者数が均衡化することが予想されてきた

小学校から塾通い「赤ペン先生」添削受講が増えて行く

指導要領は、80年代の反動として、時間数の減（土曜休日も含む）に

⇒「ゆとり教育」の始まり

「ゆとり教育」の例

⇒ 中学英語 週3時間 文法は基本的に教えない

単語を書かせて覚えさせることをしない

読み書き量の大幅な減少

(4)「生きる力」の養成（'90年代後半～'00年代）

・読む力がなくなったことで、どんなことが生じたか

⇒ 理数系の問題文が理解できなくなった

現代文の読解力がなくなった

漢字・英単語が綴れなくなった

⇒ 思考する力が落ちた

・拍車を掛けた、大学入試のレベル落ち

大学の乱立は、「売り手市場」を作ってしまった

・2001年指導要領は、「生きる力」を指針とした

自分で考え、生きて行く能力を養成することを謳った指導要領を実施

⇒ 表現する力の養成に力点が置かれた

⇒ 英語「オーラルコミュニケーション」科目新設

国語 聞く・話す含む、「国語表現」科目の新設

・二極化の出現

大学全入時代の中で、国公立大学+難関私大を目指す生徒・高校とそうでない生徒・高校の分化が大きくなった

ピサテストなど、世界的標準試験で日本の高校生平均値が下がった

(5) 新カリキュラム（現在）

・小学校 2011年、中学 2012年、高校 2013年から実施

・「ゆとり教育」からの揺り戻し

数・理科目は、1年前倒しで、新学習指導要領実施

英・数・国の単位数増と必修の登場

「表現力」重視から「思考力」重視へ

・指導要領の基調は、10年前と変わらない

「生きる力の養成」

しかし、「二極化」は進むだろう

⇒ 大学の経営危機は、入試レベルを下げることを結果するだろう

思考力・読解力は簡単には身につかない

⇒ 経済状況の悪化は、公教育しか受けられない子を増やす

③「生きる力」を考える

(1)「生きる力」ってなんだろう

・「知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスに配慮し、思考力・判断力・表現力の育成に一層重視」（文科省「新学習指導要領」）

「言語に関する能力の育成を重視し、（すべての教科で）批評・論述・討論と言った学習を充実した」（同上）

・新学習指導要領は、「生きる力」は、思考する力から生まれるので、思考する力を全教科上げて実施しなさい と言っている

(2) 出版物の中に織り込むもの

・「生きる力」＝自立して生きて行く力を付ける学習

これが教科書の課題であり、学参出版全体の課題

・「（生徒の）分からないところ」を理解すること＝思考力は理解から生まれる

生徒の分からないところが、分からなくなっている学校

出版社は、先生と生徒の「分からないところ」を共有することが求められる

先生に生徒の「分からないところ」の指導案を提起する

・「耐える事」と「繰り返すこと」＝記憶するための力を養う

「耐える事」⇒耐えて読むこと、耐えて聞くこと、耐えて書くこと

「繰り返すこと」⇒漢字・英単語を繰り返し書く、文法を繰り返し解く

・先生にがんばってもらうこと

生徒の逃げに諦める先生の出現＝「うちの子はだめだ」「うちの子は読めない」

先生が諦めたら、生徒はもっと簡単にあきらめる

先生と激励、時には叱咤

・親が学校に任せない事

現高校生の親は、バブル時代に中学・高校生だった

楽に育った、子供と向き合えない世代

家庭が（親が）子供の生きる力を着けなければいけない

家庭での親子の生き方が問われている

交換留学生報告 2011年12月

森口 暁穂

国 フランス 1760 ホストクラブ cassis ファミリー Mr. Ruiz
九段中等教育学校 スポンサークラブ 麹町ロータリークラブ

今月はたくさん大きな出来事があって楽しかったです。まず月のはじめに自分の誕生日がありました。1ヶ月くらい前からみんなに、「もうすぐ誕生日だよね」とか「何歳になるの」と言われ続け、あまり自分の誕生日が好きではない私は少し憂鬱でした。でも当時は朝友達と挨拶するときからみんなにおめでとうと言ってもらい、プレゼントを貰ったりして嬉しかったです。1時間目の授業の最初にもクラスみんなで歌を歌ってくれて感動しました。お昼のときには、いつもは一緒にご飯を食べない子達も一緒に食べてくれて、スーパーで買ったケーキに「ミカド」というグリコから出ている、日本では「ポッキー」と呼ばれているお菓子を17本指して、みんなでお祝いしてくれました。お昼休みの後はもし私が留学してなかったら、この人たちみんなと出会えなかったんだよな、と思って凄く感動しました。ホストファミリーのほうでも大きくお祝いしてもらって、ケーキのろうそくが普通の物に加え、上に吹き上がる花火みたいなのもあって、とてもびっくりしました。

他のイベントとしては、週末にホストファミリーにローマの遺跡がたくさん残る町に連れて行ってもらいました。町全体がローマ時代の城壁で囲まれていたり、凄い大きな絵がいっぱい壁いっぱいに貼られている教会に行ったり、円形競技場があったり、とりあえず素晴らしかったです。最後はゴッホが過ごしたという「アルル」という町に行きました。日本で英語の時間にゴッホについて勉強していたのですが、町の名前の呼び方が違って、教科書に載っていた写真と同じ病院に着いて初めて気がつきました。そしてここは凄く大きな平地なのも有名なのですがそのことにもびっくりしました。周りに山もなくて海もなくてただ平らな陸続きのところに行ったのは初めてじゃないかなと思います。

そして次の週にも同じ地区のアメリカからの派遣生のお家の近くのローマの遺跡がたくさん残っている町に連れ行ってもらいました。大きな遺跡から、前にはここにお家があったのかなというくらいにしか分からない遺跡までたくさんありました。そして美術館もあって、そこにはローマの時代の水道管やお皿、お金までたくさん飾ってありました。お金は年代別、皇帝別に並べられていて、五賢帝時代のも置いてありました。このときは友達のお家に1週間程泊まったのですが、違うホストファミリーの形も知ることができて、新鮮でした。このときはクリスマス前だった

ので、本格的なクリスマスツリーの飾り付けを体験しました。クリスマスツリー自体は普通に飾り付けするのですが、クリスマスツリーの周りにサントンと呼ばれる小さい人形のようなものをたくさん飾ります。真ん中にキリストが生まれたときの人形を置いて、他の人たちはそれを囲むように置きます。紙とかで、川や空を作ったり、近所の道からコケとか枝とか取ってきたりして本格的に作ります。みんな真剣に話し合ったり決めたり、とても驚きました。

クリスマスイブとクリスマスは高校の友達のお家にお邪魔して来ました。朝から夜のためのパンとか鶏肉とかたくさんお買い物に行って、お昼はみんなでケーキを作って、夜は凄く豪華なごはんをみんな親戚集まって食べました。私のいるプロヴァンス地方は13種類のデザートを食べるのが習慣らしくて、びっくりしました。デザートだけで大きなテーブルがいっぱいになりました。夜は12時ちょっと前に教会に行きました。たくさん歌ったり、たくさんスピーチのようなものがあったり、でも教会にいる人みんな流れを覚えていて凄くと思いました。帰ってきてからはテレビでバチカンからの中継が放送されていて、今年はクリスマスの大きさ、重要さを凄く感じました。

そのあとはずっと行きたかったパリに行ってきました。バカンスの時期だったので、どこに行ってもたくさん人がいて長時間並ばなきゃ行けないのと、とても寒かったのは大変でしたが、本当に綺麗で素敵な街でした。一番心に残っているのは凱旋門からの夜景です。私が行ったときに丁度エッフェル塔がいつもと違うイルミネーションになっている時間で、本当に綺麗でした。ルーヴル美術館も想像していたより、綺麗なところでした。モナ・リザは凄い人が集まっていて、世界で人気名人ベスト10には入ると思いました。一番見ることができて嬉しかったのはハンムラビ法典です。教科書で見ていたのと全然イメージが違ったのでとても驚きました。楔形文字も凄く綺麗に残っていて、3000年以上も前のものをこんなに綺麗に残せるなんて人間は本当に凄く感動しました。来年もたくさん新しいことを経験できたらと思います。

東京麹町ロータリークラブ

設立	1968年6月17日	〒102-0093
例会日	月曜日 12:30	千代田区平河町 1-3-8
例会場	ホテル・ニューオータニ	平河町プラザ 204号
		TEL:03-3263-9220
会長	植芝 守央	FAX:03-3263-9122
幹事	松本 直樹	e-mail office@koujimachi-rc.jp
会報委員長	荘村 明彦	URL: www.koujimachi-rc.jp
		事務局 村上